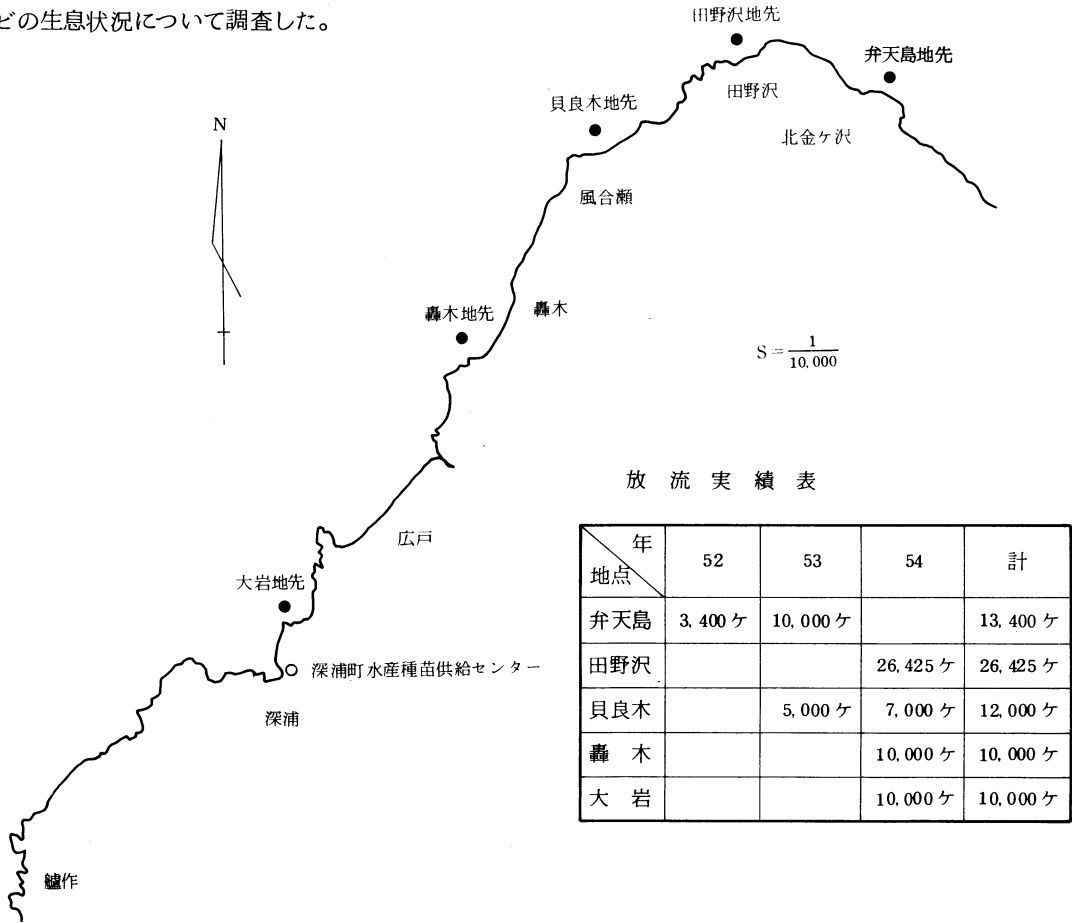


風合瀬地先における人工採苗アワビの 放流追跡調査

佐藤 敦⁽²⁾ ・ 宝多 森夫⁽³⁾ ・ 川村 要⁽¹⁾ ・ 長谷川 馨⁽¹⁾
 青山 宝蔵⁽²⁾ ・ 中田 凱久⁽³⁾ ・ 永沢 量⁽⁴⁾

深浦町では、昭和52年度に沿岸漁業振興の一環として深浦町水産種苗供給センターを新設し、昭和54年度までに約7万個のアワビ稚貝を中間育成し、管内の5地先(第1図)に配布放流を行なっている。

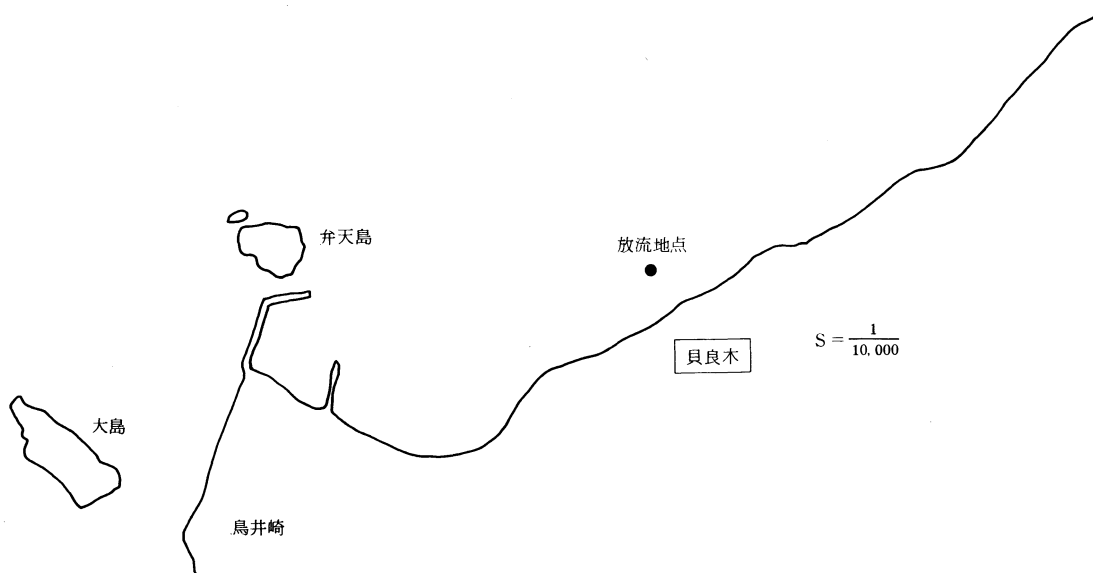
今回、その1例として昭和53年12月に5,000個の稚貝放流を行なった風合瀬、貝良木地先の放流アワビの生息状況について調査した。



第1図 アワビ放流地点位置図

- 1 調査月日 昭和54年6月7日
- 2 調査場所 風合瀬貝良木地先 水深 3~6m (第2図)

(1)、(2)、(3) 鱒ヶ沢地方水産業改良普及所 (4) 深浦町役場



第2図 貝良木地先の調査場所

3 調査方法

スキューバ潜水夫2名により、第2図に示した放流地点周辺の水深3m～5mにかけて調査を行った。なお水深3mと5mの2地点については、枠取り調査を行ない海底の形状、底質、海藻類の着生状況、害敵生物の生息状況などの観察を行った。

4 調査結果

(ア) 海底形状

海底は一部の岩盤地帯を除き、砂上に径30～50cmの転石が多くみられ、概して起伏は小さい。

(イ) 生物

転石上にホンダワラが密生しており、ところどころにツルアラメ、ワカメなどが着生している。動物としては、ホンダワラの繁茂した中にアメフラシが多く、転石の表面には腕長2cm前後のイトマキヒトデ、転石の裏面にはクモヒトデが多く、アワビ、サザエも観察された。

第1表 放流場所付近の枠取り調査による生物の生息状況(1m×1m)

調査場所 採集生物	岸側 (水深 3.0 m)	沖側 (水深 5.0 m)
ホンダワラ	3,920 (g)	2,240 (g)
ツルアラメ	340 (g)	180 (g)
イトマキヒトデ	4 (腕長 17～28%)	1 (腕長 24%)
クモヒトデ	7	多数
アメフラシ	3	2
巻貝	1	—

㊦) 放流アワビの追跡

放流地点を中心に半径30 m ぐらいの範囲で観察を行なった。潜水夫 2 名により延べ90分間に80個体が再捕された。

アワビの稚貝は水深 5 m 周辺に多く、転石 1 ケ当たり 4 個体も付着しているのが見られ、特に転石の裏側から多く再捕された。

放流時はカキ殻に付着させて放流を行なったが、今回の調査では、カキ殻の形跡は全く見られなかった。

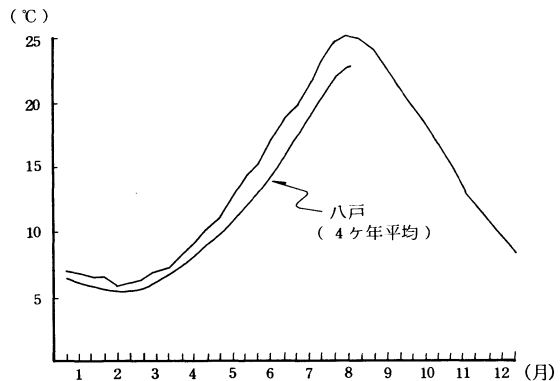
その他、トコブシが 5 個体採捕されたが、エゾアワビ、クロアワビなど天然のアワビは観察されなかった。

第 2 表 再捕された放流アワビの放流時、再捕時の測定結果

No.	再捕時殻長 (%)	放流時殻長 (%)	増 殻 長 (%)	No.	再捕時殻長 (%)	放流時殻長 (%)	増 殻 長 (%)	備 考
1	34	17	17	11	26	20	6	期間 174 日
2	40	19	21	12	31	23	8	
3	35	19	16	13	28	28	0	へい死貝 (23%)
4	36	17	19	14	20	18	2	
5	33	19	14	15	25	19	6	トコブシ <div style="display: flex; align-items: center;"> { <div style="margin-left: 5px;"> <p>62 %</p> <p>58 %</p> <p>57 %</p> <p>65 %</p> <p>14 %</p> </div> </div>
6	41	17	24	16	26	20	6	
7	39	28	11	17	25	18	7	
8	38	25	13	18	36	28	8	
9	28	23	5	19	40	30	10	
10	33	23	10	20	36	18	18	
				平均	32.5	21.2	11.1	

5 考 察

(1) 貝良木地先の場合、昭和52年12月14日に 21.2%で放流された稚貝が、冬期間をはさんだ6ヶ月間(174日)に平均11.1%の増殻長が見られ、大きいものでは、24%に達している。これは階上村地先の荒谷、追越で行なった昭和51年11月22日~昭和52年7月6日まで7ヶ月間の増殻長2~3%に較べるとはるかに良い成長を示していることになる。このことは今後両海域の特性を比較検討することにより、その要因が明らかとなろう。



第 3 図 旬平均の水温
(鱒ヶ沢漁港 22 ヶ年平均)

- (2) 今回の調査でアワビの生息場所が転石の裏側に多く、潜水時間が延べ90分と短かったにも拘らず80個体の放流アワビを再捕出来たことは、アワビの分散はあまり考えられず放流地点周辺にとどまっていたものと考えられる。しかしながら今後アワビの成長に伴ない餌料海藻の不足から沖合への逸散も予想されるので引き続き追跡調査を行なうことが望ましい。
- (3) 餌料海藻が少なく、殻長20%前後のアワビを冬期間放流することは危険であると危ぶまれていたが、貝良木地先の場合この危惧はないものと思われる。へい死貝が1個見つかったが、成長の跡は見られず放流時点でのものと考えられる。害敵生物としてはイトマキヒトデが意外に多いので放流に際しては事前に場所の選定、掃除などを行なうことが望ましい。
- (4) 深浦町管内でのアワビ

種苗放流の実績を見ると第3表のとおりで、かなり多くの種苗が放流されていることになる。

しかしこれらについて放流後の追跡調査は殆んどなされておらずその後の経緯については不明になっているのが実情である。今後この事業をすすめる場合、深浦町、各漁協で潜水夫を養成し各地先の漁場の実態を把握し、管理するよう心掛けることが先決であるように思われる。

第3表 深浦町管内のアワビ種苗放流実績（深浦町産業課）

実施年度	事業名	漁協名	放流アワビ種苗		放流水域	備考
			個数(個)	殻長(%)		
46	沿 構	深 浦	40,000	50~80	入前崎 水深2~3m	尻屋産
47	〃	〃	40,000	50~80	入前崎 水深3~5m	〃
48	〃	〃	30,000	40~70	広戸 水深10~15m	〃
49	〃	〃	25,000	40~70	広戸 10~15m	〃
50	独 自	〃	3,000	30~40	久六島	増殖センター産
52	〃	〃	3,157	34	〃	〃
〃	〃	大戸瀬	3,400	40	弁天島	尻屋産
53	〃	〃	10,000	45	〃	〃
〃	アワビ放流事業	風合瀬	5,000	26	貝良木 水深4.5m	町センター産
54	〃	大戸瀬	16,258 10,167	31 34	田野沢 水深4.5m	〃
〃	〃	〃	5,000	34	関 水深3m	〃
〃	〃	〃	4,000	34	晴 山 水深4.5m	〃
〃	〃	〃	10,000	34	とどろ木 水深3m	〃
〃	〃	風合瀬	7,000	32	貝良木 水深4.5m	〃
〃	独 自	深 浦	10,000	40~80	大 岩 水深5m	尻屋産
〃	〃	〃	4,000	40~80	久六島	〃

引用文献

小田切他(1980) 人工採苗アワビの放流追跡調査